

第2回 和光市立小・中学校の適正配置・適正規模等検討委員会 会議録（要点）

平成21年7月 8日

15:00～16:40

和光市役所503会議室

出席委員18名 欠席委員1名

教育委員会出席者

大久保教育長

田中教育部長

鈴木事務局次長兼学校教育課長

西学校教育課課長補佐兼指導主事

協議（ :委員の主な発言 :事務局の回答の概要）

本日の資料について確認したい。学校内ではあるが教育施設として使われていない部分、例えば学童保育に使用している部屋や福祉関係の部屋等は校地面積に含まれているのか。

含まれている。ただし、給食室や体育館は除いてある。

校地面積の中には駐車場等に使用されている敷地や正門等の部分は含まれているのか。

駐車場等もすべて含まれている。

白子小学校の南校舎のプレハブについてはどうか。

調査しておく。

それでは、「適正な学校規模」について意見をいただきたい。子どもひとりあたりの面積を比較すると白子小と本町小では3倍の開きがある。大和中と第三中も2倍程度違っている。広沢小と第二中ぐらいの学校を適正規模と考えていくのか。

学校運営上の理想的な学級数とはどれぐらいと考えたらよいのか。

小学校設置基準では適正規模は12学級から18学級と示されている。12学級を下回れば小規模校、18学級を上回れば大規模校となる。児童数も236名から460名と示されている。小中学校でどれぐらいの児童生徒数が望ましいかと考えた時に、大和中の生徒数はやはり多すぎるのではないか。

和光市の子どもたちにどういう学校環境を整えるかが大切である。和光市の現状を踏まえた上での適正規模を考えたい。

小学校では、1学年3学級の6学年が望ましいのではないか。1学級の児童数を30名と考えると全校児童は540名となる。安定した学校運営もやりやすいと思う。中学校は1学年5学級として全校で15学級。学級数が奇数であると子どもたちにも教育的により刺激を与えられる。市内全域でこのような学校規模となれば望ましい。前回の資料を見ると、南側の人口は44751人であり、7つの学校がある。単純に人口を学校数で割ると1校あたり6393人と

なる。一方北側は、人口は31909人で学校数は4校である。割り算をすると1校あたり7977人となる。人口の単純な計算でも南側と北側では1620人ほど違う。北側にもう1校学校を設置すると、1校あたり6380人となり南側との均衡がとれる。小学校、中学校のいずれかを設置するのかという課題はあるが、北側に学校は必要だろう。

大和中は現在特別支援学級を入れて22学級あるが、15学級ぐらいが適当ではないか考えている。現状では生徒数が多い。運動場や体育館の施設は限られている。生徒の活動意欲を高め、伸び伸びした学校生活を送らせるためには、施設の広さが必要だと思う。

学校は児童数によって教員の数も決まってくる。児童数が少なければ教員数は少なくなるし、児童数が多ければ教員数も多くなる。あまり学級が少ないと、学校運営上困ることが起こってくる。一方、児童生徒数が多くなると、施設や設備は限られているので、機能的な部分での学校運営がうまくいかなくなることもある。小学校でいえば、18学級ぐらいだと既存施設を活かして効果的な教育活動が展開できる。

和光市の小学校では1学年3学級として18学級、中学校では1学年5学級として15学級ぐらいが適正な学校規模であることを確認しておきたい。なるべくこの学校規模に近づけていくようにしたい。

次に、「適正な学区」についてはどうか。

白子小学区は南北に細長い。車両の通行が非常に多い笹目通りを渡らなければならない児童もいる。ダンプカー等の大型車両の通過も多い。また、遠いところから登校する児童もいる。校区による通学時間等も調べてみたい。

和光市には区域外通学者も多い。児童数が多い学校の校区からの区域外通学者が多いのではないかと。白子小学区には三園小へ区域外就学をしている児童も多い。小学校の区域外就学者の大部分は学区の広い白子小学区、第五小学区ではないか。

練馬区や板橋区への区域外就学者は、都県境に在住する方がほとんどである。白子小、第四小、第五小が指定校となっている方々である。

和光市には私立幼稚園が4園ある。幼児は自宅近くの幼稚園に通うことが多い。自宅の近くの幼稚園を選ぶ。小学校入学に際して、幼稚園の友達と一緒に学校に就学することも多い。和光市の学校に魅力が感じられずに、そのまま区域外就学をする例がある。また、保育園も市の南側に多い。

和光市では区域外就学者が多い。本来は市内の学校に進学するべきであろうが、市としてそういった環境を整えるべきなのか。通学距離についても幼児教育との接続を考慮した学校配置が必要なのか。それとも、保護者が選択すればよいことなのか。

区域外就学者については進学等についての悩みがあると聞いている。区立中学校への進学ができにくい状況があるので、どうしたら和光市に戻れるか考えているそうだ。

中学校としては市からの情報を得て対処している。

本年度から実施している学校選択制についてのお問い合わせの中に、区域外就学者の進学問題がある。利用者の中にも、将来の高校進学を考慮して、区域外就学者が第二中への進学を決め

ている例がある。

下新倉・新倉地区に小学校を設置すれば区域外就学者は減少する可能性はある。また、南地区に小学校を設置すればこの地区の区域外就学者も減少する可能性はある。しかし、南地区には小学校を設置することはできないのだから、区域外就学者については、検討の観点に入れないほうがよい。

区域外就学者が和光市の学校に戻りたいと考えた時に相談の窓口はある。解決策もある。それでは、区域外就学者については考慮せずに検討を進めたい。幼稚園や保育園の資料は全くないので、事務局で資料があれば次回用意してほしい。

現在の児童生徒の通学距離や通学時間を考えると和光市の中では違いが大きい。

白子小、新倉小は児童数で考えると市内の1位と3位である。今年度より実施している学校選択制の利用者はごくわずかである。やはり、近くの学校へ通学させたいとの保護者の意向が現れたものだろう、白子小、新倉小は児童数が多いのだから、市内の学校の児童数がバランスよくなるよう考えたい。誰もがみんな近くなる学校配置が必要ではないだろうか。

小学校5年生で40分が通学時間のボーダーであるという考え方もある。1年生では何分ぐらいが望ましいのだろうか。学校は楽しいから通っているのだが、交通量や不審者の出現等もあるのである程度の考慮は必要だ。大和中は学区が大変広い。部活では朝練もあるので、通学時間や通学距離については課題がある。個人的な意見だが、中学生については、自転車やバスでの通学を認めてもよいのではないか。

通学距離や通学時間については考慮が必要である。なるべくならば、学校は近くにあった方がよい。中学校だけでなく小学校も考慮が必要だ。近くから通えるようにした方がよい。

市内の幼稚園は全部で4園あるが、近隣に小・中学校がないのは大和幼稚園だけである。

市内幼稚園の配置等の環境については、私立ということもあり微妙な問題である。幼稚園協会、幼稚園理事長会議や幼保連絡会等での話題にあげていただきたい。しかし、大和幼稚園の周りの地域に住む児童がどのぐらい時間をかけて小学校まで歩いてくるのか次回までに事務局で資料を用意してほしい。

それでは、「新設校の設置」についての協議に移りたい。

市長のマニフェストに学校設置がある。この部分については、このままとして考える方向でよいのか。

教育委員会の諮問を受けている検討委員会なので、首長部局とは別に考えたい。

学校ができると道路整備が行われ、町づくりが始まる。商店もできていく。人口も増加していくが、いつまでも続いていくことはないかもしれない。朝霞市にも例があるが、人口が減ったときに本当に学校施設が必要かという見極めをしておくことが重要だ。学校ができると道路もできるが、そこまで検討していくことが必要ではないだろうか。適正な学校規模や市内の学校のバランス、学校の位置も大切だが、幼稚園の子ども数の増加を考えると今後小学校でも児童数が増加することが予想される。学校が必要かどうかだけの検討でよいのだろうか。ある程度、全体像を見ながら考えていくことが必要ではないだろうか。

新しい学校はつくりたい。しかし、一方で市内の学校の現状はこのままでよいのかという課題がある。和光市の学校の理想像はどうか。首長部局の考え方はあるが、教育委員会は独立した組織である。経済的な観点等考慮しなければならないことは十分にわかるが、あくまで教育的な面だけで検討していただきたい。

統合型の小中一貫校は品川区で実施されている。分離型は三鷹市等の例がある。この場合は校舎は別になる。それとも従来型がよいのか。

新倉・下新倉地区への小・中学校の建設の陳情には、具体的な形が示されていたのか。具体的な形は示されていない。

大和中、白子小は児童生徒数が現実として多いのだから、北側に学校は必要だろう。新設校を仮に小中一貫校にしまうと、他の市内学校との教育的バランスの問題が出てくる。和光市としての導入の決定が必要となる。教育課程上の検討事項も多い。今後、検討できるとよい。

小学生が今後増えない学校があるのであれば、現在の小学校を中学校に転用していくことも考えたい。実際には難しいかもしれないが、新設校を設置することを考えるだけではなく、既存の小中学校をシャッフルして再検討することで、解決することもあるかもしれない。

新設校の設置地域としては、新倉3丁目、下新倉5丁目あたりがバランスがよくてよい。地区毎の人口の資料があるとよい。丁目毎の児童数はないか。

現在の児童生徒の人数だけでなく、全体のバランスをみることが必要だ。

本日は、資料P.33をお使いいただきたい。次回には、本年度就学者の資料を用意したい。新倉2丁目は振興住宅が多い。学校ができるまで10年もかかっても困る。近隣の方も地域に学校があったらよいとの話をしている。やはり、人口が確実に増加しているところには学校がほしい。他の施設との併用についても検討しながら進めていけるとよい。

昨年署名活動の結果、議会承認も得ている。白子地区、下新倉地区、新倉地区の開発が進んでいることから白子小の過密解消が課題となっている。このため新設校の設置について検討している。しかし、第五小区の課題も残っているのだから、学区域を17年度以前の形に戻すことも考えられる。この場合の状況を調べ、中学校についても同様に考えた方がよい。更に、自治会のコミュニティーについても検討が必要ではないか。

それでは、小学校については新倉、下新倉地区に設置することでまとめたい。また、学校規模が大きい大和中の課題解消のためにも中学校についても新設校設置が望ましいということでもまとめたい。

「学区変更と地域の分割」について検討したい。

今年度から実施している選択制では個人情報保護のため、住所を明らかにしないケースがある。選択制の利用者がどこに住んでいるかが把握できず、PTA会費の集金等で支障をきたしていると聞く。やはり、地域は固まっていけないのではないか。学区域はなるべく固定してほしい。

新倉・下新倉に新設校を設置した場合に、通学区域を17年度以前に戻せば、第五小の児童増

加に対応できる。

通学区域を元に戻して新しい学校を設置するときに通学区域についても検討することでよいのではないか。

新倉小の近くから北原小に通学している子どももいる。この子どもが新倉小へ通学できれば、通学距離の問題も解消できる。学区域についても検討したい。

新しい学校が建設されることを前提にした考え方である。

今回の新設校の設置については既存の通学区域を前提として話を進めたい。学区に関する不都合は新設校の設置が現実となった場合に検討することでまとめておきたい。

新倉3丁目、下新倉5丁目に学校を設置した場合白子小、新倉小の今後の児童数の推移をシュミレーションしておくことは必要だろう。机上の案となるかもしれないが、可能性として北原小も入れておきたい。

中学校についてもシュミレーションが必要である。

新倉6・7丁目にはほとんど人家がないのだから、新倉3丁目、下新倉5丁目に学校を設置した場合、学区域から通学する児童の距離的な考慮も必要である。

通学区域を適切に定めることと通学時間に配慮することが必要である。

白子小、大和中は確かに児童生徒数が多いが、市内を見渡せば小規模校もある。市内全体を考えると児童生徒を収容するだけのキャパシティもある。新設校の検討だけでなく、教育環境の適正化のためにあらゆる方法をとることが重要である。現実的な対応として、通学区域の変更や学校選択制の導入を行ってきた。大規模学校の問題だけに視点を当てていてよいのかということもお考えいただきたい。

小規模校の問題やバス通学の問題についても検討したい。バス通学などに関しては熊本等ではうまくいっていない状況もあるという。ただ、選択肢としては考えられる。次回に検討したい。